

2 令和5年度の概況

この章では、京都の未来像及び行政経営の大綱ごとの「進捗状況と今後の取組」について、令和5年度の主な取組等を基に、総括的な概況を記載しています。

地球環境に暮らしが豊かに調和する

「環境共生と脱炭素のまち・京都」

めざすべき京都の姿（未来像）

ものづくりの伝統に裏打ちされた匠のわざや最先端の技術を用いた環境と調和した産業が新たな雇用を生み、公共交通を優先するまちづくりがくらしやすさや訪れやすさを高め、三山の森とまちなかの緑がすべての市民に潤いと癒しを与え、地域の個性が多様なにぎわいを創出するといった、地球環境に暮らしの豊かさが調和した脱炭素のまちをめざしています。

進捗状況と今後の取組

未来像の実現を目指し、「京都市地球温暖化対策計画」に基づき目指す2050年二酸化炭素排出量正味ゼロ、「京都市循環型社会推進基本計画」に基づく食品ロスやプラスチックごみへの対応やごみ減量、人と公共交通優先の「歩くまち・京都」の推進、緑と自然環境の保全など、脱炭素・自然共生・循環型のまちづくりとライフスタイルの転換の取組を、市民ぐるみで進めています。また、今後の成長分野として期待されるグリーン（環境・エネルギー）産業の振興に取り組んでいます。

（令和5年度の主な取組）

- ・脱炭素先行地域の取組として、伏見工業高校跡地等の活用に関する基本協定を締結したほか、文化遺産、商店街、住まい等の脱炭素化の支援を実施
- ・プラスチック製品の分別回収を開始
- ・ごみ量がピーク時（平成12年度）から54%減少（37.2万トン、23年連続減少）
- ・府市協働で「きょうと生物多様性センター」を設置
- ・将来にわたって、地域の特性やニーズに応じた生活交通を維持・確保し、持続可能なものとしていくための考え方や具体的な取組を示した「京都市地域公共交通計画」の策定

（今後の方向性）

- ・地球温暖化対策については、地球温暖化対策計画に掲げる施策に加え、脱炭素先行地域事業や、重点対策加速化事業を着実に推進し、一層の脱炭素転換に取り組んでまいります。
- ・循環型社会の実現に向けては、「京・資源めぐるプラン」に基づき、食品ロスやプラスチックごみの削減を促進するとともに、小売事業者の店頭での資源物回収を支援するなど、2Rと分別・リサイクル、リニューアブルを推進してまいります。
- ・生物多様性保全については、世界共通のテーマとなり、事業活動において配慮が求められる潮流の中、民間所有地における自然共生サイトの認定の積極的な促進や、脱炭素など他施策との連携による効果的な施策展開などを通じて、生物多様性の保全と持続可能な利用の取組を一層推進し、「自然共生社会」の実現を目指してまいります。
- ・「歩くまち・京都」の推進については、交通事業者と行政における相互連携の強化や、安心・安全で魅力的な歩行空間の創出など、『「歩くまち・京都」総合交通戦略2021』に掲げる施策等をお互いに密接に連携させ、相乗効果を創出しながら、人と公共交通優先の「歩くまち・京都」の実現に向け取組を進めてまいります。

歴史・文化を創造的に活用し、継承する

「日本の心が感じられる国際都市・京都」

めざすべき京都の姿（未来像）

千年の悠久の歴史に培われた豊かな文化と奥深い伝統に彩られたまち・京都に対する一層の愛着と誇りをもち、「住んでよし訪ねてよし」の国際文化観光都市であり続けることをめざしています。

進捗状況と今後の取組

未来像の実現を目指し、京都らしく美しい景観や永年の歴史に育まれてきた文化を守り、いかし、継承する取組、市民生活との調和を最重要視した「観光課題解決先進都市」の実現に向けた取組、住む人にも、訪れる人にも魅力的な国際都市であり続けるための取組など、京都ならではの歴史・文化を創造的に活用し、次世代に継承する施策を展開しています。

（令和5年度の主な取組）

- ・京都市立芸術大学及び京都市立美術工芸高等学校の移転・開校
- ・文化庁の京都移転及び京都市立芸術大学の新キャンパス移転を記念し、市内11区の名所や観光地等で京都芸大在学生や卒業生等による無料コンサートを開催
- ・カルチャープレナー（文化起業家）アワードの開催
- ・文化芸術寄付ポータルサイト「Kyoto Art Donation」の開設及び継続寄付（メンバーシップ）の受付開始
- ・子ども向け文化芸術サイト「KYOTO ART BOX for KIDS」の開設
- ・観光シーズンにおける臨時バスの運行、京都駅に向かうバスから地下鉄への無料振替等の混雑対策を実施
- ・主要観光地の混雑状況やリアルタイム映像等を配信する「京都観光快適度マップ」に、新たに外国人の位置情報ビッグデータを反映することで、混雑予測の精度を向上
- ・市内観光関連事業者、市内において京都観光モラルの推進に資するサービスの提供、取組を推進する事業者、NPO等を対象とした京都観光モラル推進宣言事業者の募集
- ・京都観光に関する認定メディアまとめサイト『Kyoto Official Media Partners』の開設

（今後の方向性）

- ・文化芸術振興については、大阪・関西万博の開催を見据え、文化庁と緊密に連携しながら、本市の大きな魅力である文化を全国、世界へ発信するとともに、その文化力をまちの課題解決に活かしていくため、市民や有識者と対話を重ねながら、文化政策の軸となる戦略を練り上げてまいります。
- ・景観については、引き続き、京都の景観の守るべき骨格を堅持しながら、地域ごとのビジョンや特性に応じたまちづくりを市民・企業・事業者等との協働により進めてまいります。
- ・観光については、全庁体制の下、観光特急バスの新設、京都観光快適度マップを活用した混雑状況の見える化、手ぶら観光の推進などの混雑対策等の観光課題対策に取り組むとともに、府市連携による周遊観光の一層の推進や観光に対する市民の共感の輪の拡大を図り、市民生活と調和した持続可能な観光を実現してまいります。

伝統と知恵を生かし、豊かなくらしと都市の活力を支える

「環境と社会に貢献する産業を育てるまち・京都」

めざすべき京都の姿（未来像）

環境問題をはじめ現代社会が抱える課題から需要を掘り起こし、これまで培ってきた価値観や知恵を生かして、世界市場をも視野に入れた新たな産業を育成することで地場産業や農林業も活性化し、雇用を創出するとともに課題解決に貢献する好循環をつくり出します。これにより、豊かなくらしと都市の活力を支える力強い経済基盤が確立したまちをめざしています。

進捗状況と今後の取組

未来像の実現を目指し、京都経済を支える地域企業等の支援、スタートアップ・エコシステムの形成、新産業の創造や社会的課題の解決に取り組む企業への支援、企業立地支援、農林業振興など、京都の強みを最大限に生かした活性化戦略を展開しています。また、国や京都府とも連携した雇用・就業対策に取り組んでいます。

（令和5年度の主な取組）

- ・大企業から中小企業への出向・移籍を支援する地域企業「担い手交流」実践プログラムの実施
- ・「京都市伝統産業未来構築事業補助金」における「海外展開枠」の新設
- ・京都駅南オフィス・ラボ誘導プロジェクト「京都サウスベクトル」の始動
- ・市内中小企業の海外展開を支援する「京都市グローバル・ニッチ・トップ企業創出プロジェクト」の開始
- ・首都圏における企業立地セミナーの開催及び進出企業のコミュニティ形成支援
- ・市内産木材を利用した民間建築物の木造・木質化支援やKYOTO WOOD EXHIBITION等における普及啓発の実施

（今後の方向性）

- ・地域企業の下支え・経営基盤の強化と、その魅力を飛躍させる成長・発展に向けた支援を加速化するとともに、多彩な才能の交流、イノベーションの創出等に取り組むことで、京都経済の未来を切り拓く力強い産業政策の推進などの成長戦略を進め、強い経済の復活につなげてまいります。
- ・企業誘致については、引き続き「オフィス空間・産業用地の創出」と「企業立地支援」を両輪に、市内企業の事業拡大支援及び海外も視野に入れた企業誘致を推進してまいります。
- ・農林業政策については、環境負荷ゼロを目指す「グリーン農業」の実現に取り組むなど、環境保全型農業への転換を着実に進めていくとともに、持続可能な林業の実現に向け、担い手育成、市内産木材の普及促進、高性能林業機械の導入や路網整備の推進に加え、森林の保全管理、林業地の集約化、施業の効率化等を図ってまいります。

誰もがともに学び成長し、未来を担う若者が育つ

「学びのまち・京都」

めざすべき京都の姿（未来像）

ともに学び成長する喜びを分かち合いながら、京都、日本、世界の未来を担う若者を、みんなで育て合う、学びのまちをめざしています。

進捗状況と今後の取組

未来像の実現を目指し、「大学のまち京都・学生のまち京都」の強みを生かした学びの環境の充実、主体的に学び合い・育ち合う、子ども・若者の成長支援、市民ぐるみ・地域ぐるみで「生きる力」を育む学校教育や生涯学習の充実等に取り組んでいます。

（令和5年度の主な取組）

- ・京都市立芸術大学新キャンパス隣接地の活用に係り、共創HUB京都コンソーシアム（大阪ガス都市開発株式会社、京都信用金庫、学校法人龍谷大学で構成）と基本協定を締結
- ・文化芸術授業（ようこそアーティスト）の実施
- ・中高生対象のユース・アントレプレナーシップ（起業マインド）プログラムの実施
- ・子ども向け文化芸術サイト「KYOTO ART BOX for KIDS」の開設
- ・全員制中学校給食の実施に係る可能性調査を行い、基本方針となる「基本的な考え方」を決定
- ・「学校部活動及び地域クラブ活動の在り方検討会議」を開催
- ・全ての京都市立学校園及び希望するPTAにデジタル連絡ツールを導入
- ・令和6年4月に全国一斉に実施された「全国学力・学習状況調査」において京都市立小学校の全教科の合計結果が4年連続で指定都市1位
- ・「ふるさと納税を活用した大学における地域連携等推進事業」において、大学が実施する経済的に困窮する学生への支援に関する取組にも寄付金を活用（使途の拡大）

（今後の方向性）

- ・大学政策については、学生の受入れから、在学中の大学の枠に留まらない学び・成長、卒業後の進路までを一貫して支援し、学生の生き生きとした活動がまちの活性化につながるよう、留学生、社会人を含む多様な学生の受入れや京都ならではの学びの推進、学生の市内企業への就職・市内居住の促進について、大学コンソーシアム京都と一層連携しながら重点的に進めてまいります。
- ・学校教育については、「一人一人の子どもを徹底的に大切にする」という本市教育理念のもと、教員の独自配置拡大等による持続可能な学校体制の構築や不登校児童生徒への支援の拡充、小中学校空調設備の整備更新などを進め、次代を担う子どもたちの健やかな育ちと学びを支える教育環境の整備に取り組んでまいります。
- ・また、高大連携やSTEAM教育、起業などの視点を入れた「京の高校生探究パートナーシップ」事業など、市立・府立の垣根を超え、高校教育の充実を図ります。

いのちとくらしを守り、安心・安全で幸福を実感できる

「支え合い自治が息づくまち・京都」

めざすべき京都の姿（未来像）

子どもからお年寄りまで、すべての人々のいのちとくらしが守られ、互いに尊厳を認め合い、支え合うとともに、誰にも居場所があり、人のつながりが豊かで、心安らかに幸福を実感できるまちをめざしています。

進捗状況と今後の取組

未来像の実現を目指し、地域コミュニティの活性化に向けた取組、市民生活の安心・安全を守るしくみの充実、高齢者や障害のある人などへの福祉の充実、保健衛生・医療の充実、危機管理・防災・減災対策の充実など、市民、事業者との協働による安心・安全なまちづくりを進めています。

（令和5年度の主な取組）

- ・地域リハビリテーション推進センター、こころの健康増進センター、児童福祉センターの3施設一体化施設（COCO・てらす）の開所
- ・敬老バス回数券の新設及び民営バス敬老乗車証の適用地域の拡大
- ・京都府南部消防指令センターの共同運用に関する基本協定を締結し実施設計を実施
- ・「京・地域福祉推進指針」、「健康長寿・口腔保健・食育推進プラン」、「第9期長寿すこやかプラン」、「はぐくみ支え合うまち・京都ほほえみプラン（2024-2029）」の策定
- ・能登半島地震災害対策支援（職員派遣、市営住宅の提供など）
- ・洛西“SAIKO”（さあ、いこう）プロジェクト みんなで進める！実行策の公表
- ・meetus（ミータス）山科 - 醍醐の推進本部の設置
- ・自治会・町内会向け SNS「いちのいち」の導入地域への支援や、地域団体向け説明会及び活用講座の開催

（今後の方向性）

- ・福祉の充実については、府市協調による障害者医療費支給制度の拡充や、学校に通学される医療的ケア児の看護体制の強化等を進めるとともに、ひきこもりや孤独・孤立など、市民の皆様が生活するうえでの課題が複雑化・多様化する中において誰一人置き去りにしないよう、行政が地域ぐるみで課題を受け止め、社会とのつながりや参加を地域において支援していく重層的支援体制を構築してまいります。
- ・能登半島地震の教訓を踏まえ、建物の耐震化、密集市街地対策、道路防災、避難所環境整備、共助による防災など、防災・減災対策を強化するとともに、自助、共助を支える公助としての役割を本市としてもしっかりと果たし、「新しい公共」の考え方のもと、市民の命と暮らしを守るための取組を進めてまいります。
- ・地域コミュニティの活性化については、志縁団体や大学、企業等の多様な主体と地域が交じり合う新たな仕組みを構築し、地域のハブになるような新しい担い手の発掘・育成に取り組むとともに、職員も積極的に交じり合いながら取組の輪を更に広げることで、全ての人に「居場所」と「出番」のあるまちの実現に取り組んでまいります。
- ・また、令和5年度に開始した洛西“SAIKO”（さあ、いこう）プロジェクトをモデルとして、山科から醍醐にかけての東部エリアにおける地域活性化に向け、meetus（ミータス）山科 - 醍醐を進めてまいります。

人間らしくいきいきと働き、家庭・地域で心豊かに生活できる

「真のワーク・ライフ・バランスを実現するまち・京都」

めざすべき京都の姿（未来像）

人間らしくいきいきと働き、豊かな家庭生活を築き、地域社会に積極的に参加・貢献するとともに、健康で文化的に学び憩うときと空間を確保することを理想とする「真のワーク・ライフ・バランス」が実現できる、人々をひきつけるまちをめざしています。

進捗状況と今後の取組

未来像の実現を目指し、誰もが働きやすい職場づくりを推進する企業・事業者への支援、保育所や介護サービス基盤の整備などの子育てや介護の負担軽減の取組、地域活動や社会貢献活動に参加できる機会の充実のほか、普及啓発や情報発信による社会全体の機運づくりなどを展開しています。

（令和5年度の主な取組）

- ・地域企業が学生等に対して自社の魅力を発信する機会を創出する「地域企業インターンシップ促進プロジェクト」の実施
- ・子ども医療費助成制度の拡充や産後ケア事業の利用者負担の軽減等により子育て世帯の負担を軽減
- ・子育て支援ポータルサイト、京都市はぐくみアプリのリニューアル
- ・「マイ保育園・こども園」、「マイ幼稚園」事業や、令和6年度4月利用分から保育利用に係るきょうだい同一園入園を最優先にする取組の実施
- ・令和6年度当初時点で11年連続での保育所等待機児童ゼロ、13年連続での学童クラブ事業待機児童ゼロの実現
- ・京都市はぐくみ未来応援事業「地域の子育て支援応援型～きょうはぐふぁんど」の創設
- ・全国初となる市営住宅の空き住戸を民間事業者と連携し、「若者・子育て応援住宅」として活用する取組（愛称：こと×こと）を開始

（今後の方向性）

- ・「真のワーク・ライフ・バランス」の推進については、多様な働き方に対する理解促進のため、業務効率化や標準化等により誰もがフォローしやすい環境づくりに取り組む企業や、子育て中の方に代わり職場で活躍される方を評価する企業の好事例等を情報発信するとともに、それらの方への手当支給に関する国の助成制度を周知し利用を促すなど、誰もが安心して働き、暮らし、子どもを育める環境づくりに取り組んでまいります。
- ・子育て支援については、国においてこども未来戦略・加速化プランが策定されるなど、子ども政策が大きな転換点を迎えており、「こども誰でも通園制度」本格実施を見据えた取組など、更なる子育て支援の充実に向けて、国や府とも連携し、子ども、保護者の視点に立った魅力ある子育て施策を推進するとともに、「次期はぐくみプラン」の策定に当たっては、子ども・若者から直接意見を聴き施策に反映するなど、こどもまんなか社会の実現に向けて取り組んでまいります。

